

科目ナンバリング		U-LAS21 20006 SO48									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語II B D2166 Intermediate German B				担当者所属 職名・氏名		非常勤講師 高田 緑			
群	外国語科目群			分野(分類)					使用言語	日本語	
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習(外国語)(対面授業科目)				
開講年度・ 開講期	2025・後期		曜時限	金2		配当学年	2回生以上	対象学生	全学向		
[授業の概要・目的]											
トーマス・マンが1944年、アメリカ亡命中に執筆した短編「掟」(Das Gesetz)という、やや難易度の高い短編の一部を読む。											
[到達目標]											
ドイツ語を身につけると共に、グローバルな教養としてモーセの物語を知る。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教圏において重要な預言者モーセをめぐる物語は、多くの人に常識として知られている物語である。本演習では特に、モーセの後継者ヨシュアの描写や登場場面に着目し、マンがこの物語を近代的視点からどのように読み解き、解釈しようとしたのか、理解する。											
[授業計画と内容]											
短編「掟」は、聖書の物語をモチーフとしながらも、モーセはエジプト人であったとするフロイトの考察の影響等を受け、聖書の物語から逸脱している部分も大きい。その一つとして、ヨシュアの役割がある。聖書においては、モーセがイスラエルの民をエジプトから脱出させる際、ファラオの説得のために、神からの奇跡として10の災いが起こる。しかし、「掟」においては、10番目の災い(エジプト人の長子の死)を引き起こす「死の天使」として、ヨシュアと彼に従う数名の先鋭部隊が登場する。ここには、ゲーテがモーセの物語について著したテキスト「荒野のイスラエル」との共通点も見られる。 本演習では特に、このヨシュアの描写や登場場面に着目し、現代のパレスチナ問題にも通ずる「約束の地」をめぐる問題に対して、マンがどのような問題提起をしているのか読み解く。読解には初級ドイツ語の知識が必要だが、予習に必要な語彙解説は随時配布し、受講者の理解度に応じて適宜、進度を調整する。 第1回 ガイダンス 第2～3回 死の天使としてのヨシュア 第4～13回 全20節のうち、11と12を講読 第14回 まとめ 期末試験 第15回 フィードバック(方法は別途連絡する)											
[履修要件]											
「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。											
[成績評価の方法・観点]											
テキストをていねいに輪読するため、平常点(50%)、それに定期試験(50%)を加味して総合的に評価する。成績評価基準の詳細については授業中に説明する。											
----- ドイツ語II B D2166(2)へ続く ↓ ↓ ↓											

ドイツ語ⅡB D2166(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、単語の意味を調べ、訳を作成する予習が必要となる。

[その他(オフィスアワー等)]

[主要授業科目(学部・学科名)]